

四国四大学合同研修会

～南海地震に先手を打つ～

代表者 森並次郎 (医学部医学科 2 年)

1. 目的と概要

四国四県の国立大学が集い、有事の際に必要な知識・技術を磨く事で、災害対応能力を向上させ、また、円滑的な協力・援助ができるようにする事を目的としました。

2. 実施期間 (実施日)

平成 24 年 9 月 8 日 から 平成 24 年 9 月 9 日まで

3. 成果の内容及びその分析・評価等

このプロジェクト事業は、9月8日では実際に南海地震が起きた場合にどのように対処すればよいのかを、丸亀市から防災専門家の岩崎 正朔様をゲストとして招き、参加者と議論しました。具体的には、震災後地震の安全を確保するためにはどのような行動を取ればよいのか、また震災後求められる救助にはどのように優先順位をつければ良いのか。またストレッチャーや担架などを使った訓練も実施致しました。

参加者に対するアンケート調査では満足度は 8.4 (10 点満点) と高く、
災害対応能力は向上した 13 人
まあまあ向上した 7 人
今後また参加したい 16 人
都合が合えば参加したい 4 人
となっており、全体として成功したと考えられます。



岩崎様の話を真剣に聞いています。



震災時の行動について議論する参加者



ストレッチャーの使用法の学習中

9月9日では、シンポジウムを開催いたしました。

「南海トラフ巨大地震について [知る、考える、備える]」

香川県危機管理総局次長 藤澤 一仁様

「被災地になる前にやっておくべきこと」

静岡県ボランティア協会 松山 文紀様

「パネルディスカッション～無関心に関心に変えるためには～」

- ・ 藤澤 一仁様
- ・ 松山 文紀様
- ・ 饗場 和彦教授（徳島大学 国際政治学）
- ・ 平尾 智広教授（香川大学 公衆衛生学）

藤澤様に香川県がどのように南海地震に対して取り組んでいるのか、をお話いただき、松山様には震災が起きる前に何をすべきか、をお話いただきました。そして防災力の源である「自助力」をどのように高めることができるのか、をディスカッションしました。

お話していただいた藤澤様や松山様が終了後に仰いました。

「普段話をする相手は年配の方が多く、20代の若者に話す事は珍しく、大変有意義だった。」

聴く側の我々も勿論、話をしていただいた講話者のお二人も満足されたようです。

講演内容も、行政側の視点と民間ボランティアの視点と双方の視点から学ぶことができ、包括的なものとなったと思います。

アンケート結果では、
藤澤様の講演 8. 3
松山様の講演 8. 9
パネルディスカッション 9. 1
と、シンポジウムの内容は全て非常に好評でした。



香川県危機管理総局 藤澤一仁様



静岡県ボランティア協会 松山文紀様



パネルディスカッションの様子



真剣な表情の聴衆

4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

このプロジェクト事業を実施したことにより、NHK・朝日新聞・毎日新聞・読売新聞に取り上げられ、地域の方々に香川大学の学生が地域を守るためにどんな活動をしているのかを伝えることができました。更に螢雪時代からも「螢雪ジャーナル・キャンパスニュース」または、「旺文社のウェブサイト（パスナビ）」にて紹介したいとの連絡を頂戴し、全国レベルで香川大学の活動を発信できました。



2012年 9月15日 毎日新聞



2012年 9月9日 読売新聞

また聴きにこられた病院職員も改めて考えるきっかけとなったようです。

- ・受援者にならないために、まず自分を守る。（自分のための防災対策をしておく）意識的に情報の収集をしているが、それをどう生かすか、どう行動するかが大事だというのは分かっている。救援者としての立場になり得る（医療従事者として）ため、組織で具体的な対策を立て、定期的に訓練を行う。災害に対しての国単位から地域、病院単位である団体や集まりの存在を知り、関わりを持っていくことで、実際に被害にあい、救援するときにはコミュニティラインとして役立つ。（香川、看護師、放射線部）
- ・災害に対する、自らの意識を向上させ、防災に関する知識をもっと増やし、「自分に何ができるのか？」ということをもみんな考えるべき。（香川、看護師、放射線部）

5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

この度の研修会を通じて、「人を助ける」ことばかりが大切なことだと考えていましたが、そもそも自分自身が人を助けることができる正常状態でなくてはならない、と考え方が更に深まりました。

そして改めて「人を助ける立場にいることの難しさ」と「人を助けることの使命」をより強く認識し、学業に励んでいきたいと考えています。

また、このプロジェクト事業により、丸亀市川西地区（岩崎様）や静岡県ボランティア協会（松田様）との交流もでき、イベントがあれば連絡いただいております。地域の方・県外の方との交流も生まれつつあります。

6. 反省点・今後の抱負（計画）・感想等

反省点として、スケジュールに合わなかったために高知大学からの参加者がおらず、3大学の学生のみが参加する結果となってしまいました。また、シンポジウムは医学部以外の学生や一般人（学外の方）がおらず、医学部生や病院職員のみとなってしまい、多くの方に参加してもらえるように広報の仕方を考える必要があると考えています。

しかしながらこの「四国四大学合同研修会」はこれで終わりではなく、定期的を開催したいと考えており、次回は徳島大学にて開催する予定です。

現在、始まったばかりの活動のため認知度も低いですが、継続していくことで、この活動を多くの方に知ってもらい参加していただくことで、仲間を増やし、震災に対して再考していただきたいと考えています。

この活動の計画から実行まで想像以上の苦労がありました。どんな内容にすべきか。参加者の興味をひき、そしてなおかつ意義のあるものにするためにはどうすれば良いのか。そしてシンポジウムにどんな人を呼び、どんな内容を話してもらえば良いのか。仲間と話し合い、一緒に作り上げていく過程では心配・不安ばかりでした。しかし、実施してみると「凄く良かった」「大変有意義だった」と言っていただき、今は安堵の気持ちと、達成感で胸がいっぱいです。この活動を通じて、企画立案・検証・実行・調整能力が鍛えられ、大きく成長したと感じています。このような機会を与えていただいた香川大学、サポートしていただいた大学職員の皆様に心より感謝しております。誠にありがとうございました。

7. 実施メンバー

代表者	森並	次朗	（医学部2年）
構成員	樋渡	健吾	（医学部2年）
	上柴	このみ	（医学部5年）
	渡部	太輔	（医学部4年）
	中村	杏子	（医学部4年）
	加藤	三咲子	（医学部4年）
	横田	崇之	（医学部3年）